

## ペルー国立工科大学と大学間交流協定を締結

平成23年3月9日（水）、ペルー国立工科大学のアウレリオ・パディジャ学長一行が千葉大学を訪問し、齋藤学長との間で大学間交流協定の署名式を行った。

今回、パディジャ学長一行は、ワークショップ（第2回日本-ペルー間ワークショップ・The 2nd Japan-Peru Workshop on Enhancement of Earthquake and Tsunami Disaster Mitigation Technology, 3/9-3-10）に参加するため来日したものの。

ペルー国立工科大学は1876年、ペルー最初の工学系高等教育機関として、土木工学・鉱山工学・冶金工学・化学工学の専門家を養成する目的で設立された。現在までに技術者や政府要人など数多くの人材を輩出しており、ペルー国内で最高レベルの理工系大学に位置づけられている。

ペルー国立工科大学と千葉大学工学部・工学研究科は2006年1月に部局間交流協定を締結して以来、活発な交流を続けてきた。特に、両大学間においては科学技術振興機構（JST）地球規模課題対応国際科学技術協力事業「ペルーにおける地震・津波減災技術の向上に関する研究」が平成21年度より5年間の計画で行われている。本事業は、ペルーにおける地震・津波災害の軽減を図ることを目的とし、両国の研究者の強い連携のもとに、地域特性を考慮した総合的な防災研究を実施するものである。

署名式には、ペルー国立工科大学からハビエル・ピケ、ペルー土木工学部長、カルロス・サバラ日本-ペルー地震工学センター所長、千葉大学から安藤副理事、山崎工学研究科教授、五味田国際企画課長が同席し、終始和やかな雰囲気の中、大学間交流協定の署名が執り行われた。

また、署名式に先立って懇談が行われ、今後も工学研究科を中心に教育研究交流を行うことで合意した。



前列左：アウレリオ・パディジャ学長